

安全データシート

作成日 2020年 2月12日

改訂日 年 月 日 1/8頁

SDS No.1021-10153

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : 32413 / Series 9 OP Pesticide Mix. #1
製造者名 : Restek Corporation
製造者住所 : 110 Benner Circle, Bellefonte, PA 16823, USA
製造者電話番号 : 1-814-353-1300 (Customer Service)
供給者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
製品コード : 1021-10153
整理番号(SDS No.) : 1021-10153
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)
使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

GHS分類 : 引火性液体 : 区分2
急性毒性(吸入:蒸気) : 区分4
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A
生殖毒性 : 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(麻酔作用、気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1(呼吸器、消化管、中枢神経系)
水生環境有害性(急性) : 区分1
水生環境有害性(長期間) : 区分1

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

H225 引火性の高い液体及び蒸気
H330 吸入すると生命に危険
H332 吸入すると有害
H319 強い眼刺激
H361 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H336 眠気やめまいのおそれ
H372 長期にわたる、または反復ばく露により臓器の障害(呼吸器、消化管、中枢神経系)
H400 水生生物に非常に強い毒性
H410 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

[安全対策] :

P202 全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
P210 熱、高温のもの、火花、裸火、及び着火源から遠ざけること。禁煙。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地しアースをとること。
P241 防爆型の機器を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。

P243	静電気放電に対する措置を講ずること。
P260	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264	取り扱い後は手をよく洗うこと。
P280	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P270	この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
P271	屋外または換気の良い場所でだけ使用すること。
P273	環境への放出を避けること。
P284	【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。
[応急措置]	:
P310	直ちに医師に連絡すること。
P303+P361+P353	皮膚または髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚をシャワーで洗うこと。
P304+P340	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308+P313	ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
P314	気分が悪いときは医師の手当てを受けること。
P337+P313	眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
P370+378	火災の場合：消火するために適した消火剤を使用すること。
P391	漏出物を回収すること。
[保管]	:
P403+P233+P235	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
P405	施錠して保管すること。
[廃棄]	:
P501	内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分に該当しない。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物

化学名(又は一般名)	濃度	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法	安衛法	
アセトン	99.9%	CH ₃ COCH ₃	2-542	—	67-64-1
ダイアジノン	0.01%	C ₁₂ H ₂₁ O ₃ N ₂ PS	5-923	—	333-41-5
クロルピリホスメチル	0.01%	C ₇ H ₇ Cl ₃ NO ₃ PS	—	8-(1)-1043	5598-13-0
ホスファミドン	0.01%	[PO(NH ₂)(NH)] _x	—	2-(7)-182 2-(7)-183	13171-21-6
メタクリホス	0.01%	C ₇ H ₁₃ O ₅ PS	—	—	62610-77-9
エトリムホス	0.01%	C ₁₀ H ₁₇ N ₂ O ₄ PS	—	8-(2)-1064	38260-54-7
フェニトロチオン(MEP)	0.01%	C ₉ H ₁₂ NO ₅ PS	3-2616	4-(9)-232	122-14-5
クロルピリホス	0.01%	C ₉ H ₁₁ Cl ₃ NO ₃ PS	5-3724	8-(1)-1042	2921-88-2
ピリミホスメチル	0.01%	C ₁₁ H ₂₀ N ₃ O ₃ PS	—	—	29232-93-7
ジクロルボス(DDVP)	0.01%	C ₄ H ₇ Cl ₂ O ₄ P	2-3224	2-(7)-181	62-73-7
マラチオン	0.01%	C ₁₀ H ₁₉ O ₆ PS ₂	2-1962	—	121-75-5

GHS分類に寄与する不純物および安定添加物 : 情報なし

4 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所へ移動し、安静保温に努め、直ちに医師の手当てを受けること。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受けること。
- 目に入った場合 : 直ちに、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。直ちに医師の手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、直ちに医師の手当てを受けること。無理に吐かせないこと。
- 暴露した場合 : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
- 急性症状および遅発性症状の
最も重要な徴候症状 : 唾液分泌過多、顔面紅潮、咳、めまい、し眠、頭痛、咽頭痛、意識喪失、吐気、嘔吐。
- 応急措置をする物の保護 : 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

- 適切な消火剤消火剤 : 粉末、泡(アルコール泡)、二酸化炭素、水(噴霧)
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 火災時の特有危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に発火する。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器が熱に晒されているときは、移さない。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。呼吸保護具を着用する。消火後再び発火するおそれがある。

6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 封じ込めおよび浄化の方法および機材 : 適切な保護具をつけて処理すること。土砂・吸着剤などに吸着させて取り除くか、またはある程度水で徐々に希釈した後、消石灰、ソーダ灰等で中和し、多量の水を用いて洗い流す。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。
屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
作業衣、作業靴は導電性のものを用いる。
アンプル開口時には保護眼鏡及び保護手袋を着用し注意して切断する。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。
使用後は残液及びアンプル容器を適切に廃棄すること。
吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。

休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいけません。
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

保管

適切な保管条件 : 直射日光を避け、防爆型冷蔵庫(2~10℃)で保管すること。
避けるべき保管条件 : 直射日光、高温、火花等を発生する場所、混触危険物質との接触
技術的対策 : 施錠して保管すること。火気厳禁。
混触危険物質 : 強酸化性物質、強酸化剤、強塩基
安全な容器包装材料 : ガラス

8 ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。
取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度 作業環境評価基準 許容濃度 :

成分名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH TLV-TWA	OSHA PEL-TWA
アセトン	500 ppm	200 ppm	250 ppm	1,000 ppm
マラソン	設定されていない	10 mg/m ³	1 mg/m ³	15 mg/m ³
フェニトロチオン(MEP)		1 mg/m ³	設定されていない	設定されていない
クロルピリホス		設定されていない	0.1 mg/m ³	
ダイアジノン		0.1 mg/m ³	0.01 mg/m ³	
ジクロロボス(DDVP)	0.1mg/m ³	設定されていない	0.1 mg/m ³	1 mg/m ³
その他の成分	設定されていない			

保護具

呼吸器の保護具 : 防毒マスク
手の保護具 : 不浸透性保護手袋
目の保護具 : 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具 : 保護衣・保護長靴

適切な衛生対策 : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。

9 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体
色 : データなし
臭い : ケトン臭
融点/凝固点 : -95.4℃
沸点または初留点 : 56.05℃ (1013.25 hPa)
可燃性 : 可燃
爆発下限界及び爆発上限界 : データなし
引火点 : -17℃
自然発火点 : 465℃
分解温度 : データなし
pH : データなし
動粘性率 : データなし
溶解度 : 水に溶解する。
n-オクタノール/水分配係数
log Po/w : データなし
蒸気圧 : データなし
密度及び/または相対密度 : 0.7845 g/cm³ (25℃)
相対ガス密度(空気=1) : 2.0
粒子特性 : 該当しない

10 安定性及び反応性

- 反応性 : 適切な保管条件下では安定。
 化学的安定性 : 適切な保管条件下では安定。
 危険有害反応可能性 : 適切な保管条件下では安定。
 避けるべき条件 : 日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源、酸化剤
 混触危険物質 : 強酸化剤、酸性化合物
 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素

11 有害性情報

- 急性毒性(経口)
 (アセトン) : 計算の結果、105,471mg/kgのため区分外に該当。
 : ラットのLD50値として、5,800 mg/kg (環境省リスク評価第6巻: 暫定的有害性評価シート(2008),SIDS(2002),ACGIH(7th,2001),EHC 207(1998),ATSDR(1994)), 8,400 mg/kg(SIDS(2002),ACGIH(7th,2001),EHC 207(1998),ATSDR(1994)), 7,138 mg/kg (若成獣)、6,667 mg/kg (老成獣)(IRIS(2003),SIDS(2002),EHC 207(1998),ATSDR(1994)), 9,800 mg/kg(ACGIH(7th,2001)), 9,883 mg/kg(ATSDR(1994)), 1,726-9,833 mg/kg(ATSDR(1994)), 5,800-10,000 mg/kg(PATTY(6th,2012))との報告がある。
- 急性毒性(経皮)
 (アセトン) : 計算の結果、716,788mg/kgのため区分外に該当。
 : ウサギのLD50値として、> 7,400mg/kg (SIDS (2002)), > 15,700 mg/kg (SIDS (2002),ATSDR (1994)), 20,000 mg/kg (PATTY (6th, 2012),ACGIH (7th, 2001)) との報告がある。
- 急性毒性(吸入: 蒸気)
 (ジクロロボス) : 計算の結果、16,600ppmのため区分4に該当。
 : ラットの4時間ばく露による2件のLC50値 [1.66ppm(EHC 79(1989))および12.2 ppm(PATTY(5th,2001))]。
- 急性毒性(吸入: 粉じん、ミスト)
 (ジクロロボス) : 計算の結果0.391mg/lのため区分2に該当。
 : ラットの4時間ばく露によるLC50値として、4件のデータ [0.65 mg/L、0.523 mg/Lおよび0.447 mg/L(以上PATTY(5th, 2001)), 0.34 mg/L(EHC 79(1989))]。
 (ホスファミドン) : 本物質の蒸気圧は0.0033Pa(20°C)である。飽和蒸気圧濃度は0.03ppmと計算され、0.102mg/Lは8.3ppmであることから、ミストと推察した。ラットLC50値の0.102 mg/L/4h、0.135mg/L/4h、0.16mg/L/4h(いずれもPIM(Poisons Information Monographs)454, WHO/IPCS, 2001)に基づき、計算式を適用して区分した。計算値: LC50=0.105mg/L/4h。
- 皮膚腐食性/皮膚刺激性
 (アセトン) : 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。
 : ウサギに本物質0.01 mLを適用した皮膚刺激性試験において、刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2002),EHC 207 (1998))。
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
 (アセトン) : 計算の結果、区分2Aとなった。
 : ウサギを用いた多数の眼刺激性試験において、強い刺激性が認められており (SIDS (2002),EHC 207 (1998),ACGIH (7th, 2001)), 結膜浮腫や角膜壊死 (EHC 207 (1998)), 角膜中心部の厚さの増大 (ACGIH (7th, 2001)) などがみられた。本物質の適用により角膜上皮は破壊されるが、基質までは至らず4-6日で回復性を示し、本物質は腐食性の眼刺激性ではないとの記載がある(SIDS (2002))。また、ヒトの疫学情報において、本物質の蒸気ばく露により眼刺激性を示したとの報告がある (環境省リスク評価第6巻: 暫定的有害性評価シート(2008),EHC 207 (1998))。なお、本物質は、EU DSD分類において「Xi; R36」、EU CLP分類において「Eye. Irrit. 2 H319」に分類されている。
- (ピリミホスメチル)
 (ジクロロボス) : ウサギの眼に軽度の刺激性との情報(HSDB(2002))。
 : ウサギを用いた眼一次刺激性試験で、軽度の刺激性(mild irritant)との結果(EPA RED(2006))。
- (マラソン)
 : ウサギでの眼刺激性試験では、結膜にごく軽度~軽度の刺激性が認められたが2日後には回復し、角膜及び虹彩には変化が無かったとの報告がある(JMPR(1997), EPA RED(2006, 2009),ACGIH(7th, 2003),PATTY(6th,2012))。
- (フェニトロチオン)
 : ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質を適用後に洗眼しない場合、適用後1時間で結膜における軽度の充血を生じたが48時間後には回復し本物質の刺激性は軽度であるとの報告 (EHC 133(1992)), 眼刺激性は軽度又は刺激性は認めなかったとの報告 (食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書(2014))。
- (クロルピリホス)
 : ウサギを用いた眼刺激性試験で軽度の刺激性を認め、24時間で回復したとの報告 (EPA Pesticide (2006),食品安全委員会農薬評価書(2011))。

呼吸器感受性	: データ不足のため分類できない。
皮膚感受性 (アセトン)	: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。 : マウス耳介腫脹試験及びモルモットを用いたマキシマイゼーション試験において陰性を示したとの報告があり、SIDS (2002)及びEHC 207(1998)において本物質は感受性物質ではないとの記載がある。
生殖細胞変異原性 (アセトン)	: 混合物として分類できない。 : in vivoでは、マウス及びハムスターの赤血球を用いる小核試験で陰性 (SIDS (2002)、EHC 207 (1998)、NTP DB (Access on July 2014))、in vitroでは、哺乳類培養細胞を用いる染色体異常試験の非代謝活性化系でのみ一例の陽性結果 (ACGIH (7th, 2001)) があるが、その他、細菌を用いる復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞を用いる遺伝子突然変異試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験でいずれも陰性である(SIDS (2002),ACGIH (7th, 2001),EHC 207 (1998),PAT TY(6th, 2012),NTP DB (Access on July 2014))。
発がん性 (アセトン)	: 混合物として分類できない。 : ACGIHでA4 (ACGIH (7th, 2001))、EPAでD (IRIS (2003)) 。
生殖毒性 (アセトン)	: アセトンが区分2に該当しその濃度が3%以上であるため混合物として区分3。 : 疫学調査で流産への影響なし (ATSDR (1994)) という報告がある。ラットを用いた吸入経路での催奇形性試験において母動物毒性 (体重増加抑制) がみられる高濃度ばく露 (11,000 ppm (26.1mg/L)) で胎児体重減少がみられ、胎児の奇形の発現率に有意な増加はみられなかったが、1つ以上の奇形のある児を持つ母動物の増加 (11.5%) (対照群:3.8%)が報告されている。また、マウスを用いた吸入経路での催奇形性試験において母動物毒性 (肝臓の相対重量増加) がみられる高濃度ばく露 (6,600 ppm (15.6 mg/L)) で胎児体重減少、後期吸収胚の増加が報告されている(EHC 207 (1998))。EHCでは、ヒトと動物で更に検討が必要であるとの記載がある。
特定標的臓器毒性(単回ばく露) (アセトン)	: アセトンが区分3に該当しその濃度が20%以上であるため区分3となった。 : ヒトにおいては、吸入経路では、アセトン蒸気のばく露で中等度の気道刺激性の報告(PATY(6th, 2012),SIDS(2002),環境省リスク評価第6巻: 暫定的有害性評価シート(2008))、100 ppm (6h) の蒸気ばく露で喉及び気管の刺激(ACGIH(7th, 2001))、500、1000 ppmのばく露で鼻、喉、気管の刺激(EHC 207(1998))、100-12,000 ppm、2分-6時間のばく露で、鼻、喉、気管、肺の刺激の報告、めまい、嘔吐、非協調動作、協調会話の喪失、眠気、意識消失、昏睡など中枢神経抑制が報告されている (ATSDR(1994),ACGIH(7th, 2001),SIDS(2002),環境省リスク評価第6巻: 暫定的有害性評価シート (2008))。ほとんどの症状は一過性であり回復性がある (SIDS (2002)) が、わずかに死亡例の報告もある(PATY (6th, 2012))。経口経路では、吐き気、嘔吐、誤飲のような大量ばく露で、けん怠感、刺激、めまい、呼吸のムラ、嘔吐、胃腸障害の進行、意識障害、無反応といった中枢神経抑制、刺激が主である (環境省リスク評価第6巻: 暫定的有害性評価シート(2008)、SIDS (2002),IRIS TR(2003))。実験動物では、アセトン蒸気ばく露の急性影響は、ヒト中毒の症例で見られる中枢神経系抑制と同じである。眠気、協調欠如、自律反射の喪失、昏睡、呼吸器障害、死亡が報告されている(SIDS(2002),ACGIH(7th, 2001))。
特定標的臓器毒性(反復ばく露) (アセトン)	: アセトンが区分1に該当しその濃度が10%以上であるため区分1となった。 : ヒトでは本物質700 ppmに3時間/日、7-15年間、吸入ばく露された作業員において、職業ばく露による影響として、めまい、脱力感とともに呼吸器、胃及び十二指腸に炎症がみられた(ACGIH (7th, 2001),DFGOT vol.7 (1996))との記述があり、ATSDR Addendum(2011)による再評価でも、ヒトでの本物質ばく露による標的臓器は呼吸器、消化管、神経系が中心であると報告されている。実験動物ではラット及びマウスを用いた13週間飲水投与試験、並びにラットの13週間強制経口投与試験において、いずれも区分2までの用量範囲で、明らかな毒性影響はみられていない(SIDS(2002))。
誤えん有害性	: 混合物の動粘性率が不明のため分類できない。

1 2 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	: 7成分が区分1に該当し計算の結果、混合物として区分1となった。
(ダイアジノン)	: 甲殻類(ヨコエビ)EC50(時間不明) = 0.20 ppb (U.S. EPA: RED, 2006)。
(クロルピリホスメチル)	: 甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50=0.62µg/L(農薬登録申請資料、1992)。
(ホスファミドン)	: 甲殻類(ミジンコ)の48時間EC50=0.01mg/L(HSDB、2004)。
(フェニトロチオン)	: 甲殻類(Caridina rajadhari)96時間LC50 = 0.000021 mg/L(環境省環境リスク評価(第2巻):2003)。
(クロルピリホス)	: 甲殻類(マギレミジンコ) 48時間LC50 = 0.000035 mg/L(環境省環境リスク評価(第8巻):2010)。
(ジクロロボス)	: 甲殻類(ミジンコ)の48時間EC50 = 0.00007 mg/L(U.S. EPA: RED, 2006他)。
(マラソン)	: 甲殻類(オオミジンコ)48時間EC50 = 1.0 ppb(U.S.EPA: RED, 2006, 2009)。
水生環境有害性(長期間)	: 7成分が区分1に該当し計算の結果、混合物として区分1となった。
(ダイアジノン)	: 急速分解性がなく(難分解性、BODによる分解度:0%(既存点検、1979)、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC = 0.17 ppb (U.S.EPA: RED, 2006))。
(クロルピリホスメチル)	: 急性毒性が区分1、急速分解性がないと推定され(BIOWIN)、生物蓄積性があると推定される(log Kow=4.31(PHYSPROP Database、2005))。
(ホスファミドン)	: 急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いと推定されるものの(log Kow=0.79(PHYSPROP Database、2005))、急速分解性がないと推定される(BIOWIN)。
(フェニトロチオン)	: 急速分解性がなく(難分解性、BODによる分解度:0%(化審法DB:1979))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC(繁殖阻害) = 0.000009 mg/L(環境省環境リスク評価(第2巻):2003、ECETOC TR91:2003)。
(クロルピリホス)	: 急速分解性がなく(難分解性、BODによる分解度:0.2%(化審法DB:1979))、甲殻類(Ceriodaphnia cf. dubia)の32日間NOEC(繁殖阻害) = 0.000045 mg/L(環境省環境リスク評価(第8巻):2010)。
(ジクロロボス)	: 急速分解性がなく(BIOWIN)、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC=0.0000058 mg/L(U.S. EPA: RED, 2006)。
(マラソン)	: 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(難分解性、BODによる分解度:22%(既存点検、2002))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC = 0.06 ppb(U.S. EPA: RED, 2006, 2009)。
残留性・分解性	: 急速分解性のない成分が多数含まれる。
生態蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 本製品中の物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	: IMOの規定に従う。
UN No.	: 1090
Proper Shipping Name	: アセトン
Class	: 3
Packing Group	: II
Marine Pollutant	: Not applicable
Transport in bulk	: Not applicable
航空規制情報	: ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	: 1090
Proper Shipping Name	: アセトン)
Class	: 3
Packing Group	: II

国内規制

陸上規制	: 非該当
海上規制	: 船舶安全法に従う。
国連番号	: 1090
品名	: アセトン
クラス	: 3
容器等級	: II
海洋汚染物質	: 非該当
航空規制情報	: 航空法の規制に従う。
UN No.	: 1090
品名	: アセトン
国連分類	: 3
容器等級	: II
緊急時応急措置指針番号	: 127
注意事項	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないこと確認する。 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う

1.5 適用法令

毒物及び劇物取締法	: 特定毒物 (指定令第1条 No.15) (指定令第2条 No.53) (指定令第3条 No.5)
労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No.17 第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号) No.1 作業環境評価基準(法第65条の2第1項) No.17-4, 35 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号) No.4-2 特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者(法第66条第2項、施行令第22条第1項) No.6
化管法	: 非該当
化審法	: 優先評価化学物質(法第2条第5項) No.114
消防法	: 危険物第4類、引火性液体第一石油類(水溶性)(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)
船舶安全法(危規則)	: 引火性液体類(危機則第3条危険物告示別表第1) No.1090
航空法	: 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1) No.1090
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 Z類物質(施行令別表第1) No.5 危険物(施行令別表第1の4) No.2
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質(中環審第9次答申) No.117, 118, 245 揮発性有機化合物(法第2条第4項、環境省から都道府県への通達)【揮発性有機化合物】
水質汚濁防止法	: 指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3) No.23, 33, 36, 39
土壌汚染対策法	: 非該当
麻薬及び向精神薬取締法	: 麻薬向精神薬原料(法第2条(7)、別表第4) No.1

1.6 その他の情報

引用文献等

化学品安全管理データブック、化学工業日報社
16918の化学商品、化学工業日報社(2018)
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
航空危険物規則書 第52版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。